

令和8年度 佐久市総合計画審議会第1部会（第4回） 議事録

日時：令和8年7月10日（金）

午前10時00分～11時30分

場所：佐久市役所議会棟 第2委員会室

【出席者】 高橋部会長、小松副部会長、太田委員、小嶋委員

【事務局】 藤巻企画課長、小林企画調整係長、井出(吉)主任、鷺見主任、
大塚主任、中澤主任、久保田主事

○協議事項等

次第

1 開会

- ・部会長挨拶
- ・欠席委員報告（柳澤委員、遠藤委員、伊坂委員、佐々木委員、鈴木委員、三石委員、大井委員）

2 議事

- (1) 第三次佐久市総合計画の取組内容（第1章・第6章・第7章）について
質疑、意見

部会長	議題の(1)「第三次佐久市総合計画の取組内容（第1章・第6章・第7章）について」事務局から説明をお願いします。
事務局	第三次佐久市総合計画の取組内容（第1章・第6章・第7章）について【第1部会】第三次佐久市総合計画策定シートに係る意見対応表に基づき説明
部会長	事務局から説明があったが、御意見・御質問はあるか。
委員	「コスモスプランの精神」とは何か。事務局の説明では、「読むこと、書くこと、行うこと」を大切にするものという理解に聞こえるが、それだけでは十分ではない。コスモスは一本では弱い、集まることで支え合う。また、倒れてもそこから伸びる粘り強さがある。自分たちで学びをつくり上げ、互いに学び合うという探究的な学習の考え方も根本にある。お互いに学び合っていく事も大事である。言葉だけが先行しないよう、市民にも分かる説明が必要である。

事務局	コスモスプランについては、注釈等を加え、市民が内容を理解できるようにする。
委員	教育には理念が必要である。当時の表現をそのまま使うだけではなく、現在の教育の中で何を大切にするのかを明確にしてほしい。
事務局	承知した。
委員	新聞報道でも、A I 教育に関する授業時間の確保が取り上げられている。A I をきちんと扱える教員が十分にいない可能性があり、体制づくりが必要である。言葉だけが出てきて、現場が対応できない状況にならないようにする必要がある。
部会長	A I 教育の言葉だけが独り歩きし、現場が対応できないことは避ける必要がある。市職員の研修も必要になると思われる。
委員	スポーツの部活動地域移行について、いつまでに移行する目標なのか。休日のみの移行なのか、完全移行はまだなのか。
事務局	部活動地域移行について、令和 8 年度の中学校 3 年生が部活動を引退するタイミングで休日の部活動を地域展開し、令和 1 0 年度の中学校 3 年生が引退するタイミングで平日の部活動も地域展開する方向で進んでいる。
委員	現状の進め方では移行が難しいという声も聞く。先行している地域の事例も参考にしながら、やり方を検討してほしい。
委員	種目ごと、学校ごとにばらばらに進めるのではなく、大きな母体をつくり、その中に各種目を位置付ける方が進めやすいのではないかと。個別対応では難しい。
委員	地域移行には指導者の確保が必要であり、ボランティアだ

	けでは難しい。報酬の考え方も含めて検討が必要である。
--	----------------------------

(2) 令和7年度佐久市デジタル田園都市国家構想総合戦略評価報告(目標②・④)について

部会長	議題の(2)「令和7年度佐久市デジタル田園都市国家構想総合戦略評価報告(目標②・④)について」事務局から説明をお願いします。
事務局	R7 デジ田総合戦略評価報告書(案)【目標②】に基づき説明
部会長	事務局から説明があったが、御意見・御質問はあるか。
委員	目標②に関連して、インスタグラムのフォロワー数は目安値に対して実績が大きく下回っている。また、行政サポートによる移住者数も目標に対して十分とはいえない。こうした状況について、どこに原因があると考えているのか。
事務局	インスタグラムのフォロワー数については、目標値の設定の考え方にも課題がある可能性がある。市ではインスタグラムだけでなく、X、Facebook 等、複数の SNS で発信している。どの媒体のフォロワー数がどの程度伸びるかを読み切ることには難しい。移住者数については、行政サポートを受けずに移住している人もいるため、この指標だけで全体を捉えることは難しい。移住の掘り起こしをさらに発展させる必要があると考えている。
委員	目標値の設定自体を問いたいわけではないが、実績が伸びない原因をどのように分析しているのかが見えにくい。インスタグラムは若い人向けであり、高齢者には使えない人もいる。実態の把握の仕方を検討する必要がある。
部会長	フォロワー数の目標について、その数値に達するとどのような効果があるのかが見えにくい。実績は前年度から伸びており、一定の成果はあるように見えるが、目標値との関係で

事務局	は「努力を要する」となる。目標設定の背景や、フォロワー数がどのような効果につながるのかを整理する必要がある。また、行政サポートによらず移住している人もいるため、行政サポートによる移住者数だけで一喜一憂することには難しさがある。
事務局	行政の取組自体をプロジェクトに位置付けているため、行政サポートによってどの程度移住が増えたかという視点で指標を設定している。ただし、この一つの指標だけで評価し切れるものではない。当初は特徴的な指標を拾い、そこで評価する考え方だった。指標だけで見れば努力を要するが、多様な取組により事業は前に進めているという総括である。
委員	実態像のつかみ方には注意が必要である。一つの指標だけで全体を評価すると、見えていない部分が出てくる。今後の課題として検討してほしい。
部会長	各取組を実施した結果、目標まで届かなかったのであれば、期待した効果が出ていないという評価になる。
委員	その場合、どの取組がどうだったのか、次に何をするのかを見ていく必要がある。
委員	佐久市の魅力発信がInstagram等のデジタル発信に偏っているように見える。移住相談会など、実際に出向いて人と話す取組は行っているのか。
事務局	移住相談会や首都圏での相談会など、実際に足を運ぶ取組も行っている。ターゲットが子育て世代であることから SNS も活用しているが、対面での相談も実施している。
委員	昔は東京駅でコスモスの種を配るような取組もあった。こういう時代だからこそ、直接人と話す取組も大事である。
事務局	R7 デジ田総合戦略評価報告書（案）【目標④】に基づき説明

部会長	事務局から説明があったが、御意見・御質問はあるか。
委員	資料に「防災訓練を実施した自主防災組織の割合」が KPI として出ているが、なぜこの指標が取り上げられているのか。安心・安全な暮らしにつながることは理解できるが、評価項目として突然出てくる印象がある。設定理由が分からない。
事務局	設定当時の理由は把握していない。ただし、「安心・安全に暮らし続けられるまちづくりの推進」の具体的な取組の中に、災害に強いまちづくりがある。
委員	防災訓練の実施割合だけで、安心・安全な暮らし全体を評価できるのか疑問がある。一部分だけを見ているように感じる。
事務局	特徴的なもの、指標化しやすいものを取り上げたのだと思う。指標設定にはアウトプットとアウトカムのある考え方がある。この指標は、設定しやすいアウトプット指標として取り上げたものと考えられる。全体を捉えて評価するには物足りなさがあるかもしれない。
委員	50代の満足度が低いとの説明だったが、60代、70代はどうなのか。年代別の全体傾向が見えない。年代別分析は可能か。
事務局	年代別の分析は可能である。
委員	分析の仕方について検討が必要である。50代で低い項目として就労・雇用や交通が挙げられている。望月地域のデマンド交通について、予約してから来るまで時間がかかる、便が集中して対応できないといった話を聞いている。単にデマンド交通を運行しているというだけでは不十分であり、どう運行し、どう改善するかが重要である。「やっています」で終わってしまう評価の仕方でのいいのか。

委員	空き家対策について、補助金申請件数が0件となっている。制度を知らない人が多い可能性もあり、周知不足が課題ではないか。空き家は増えているが、使えるものもある。行政が把握し、必要な人に情報が届くようにする必要がある。
部会長	空き家は住居としてだけでなく、店舗や古民家カフェのような活用も考えられる。店を出したい人とのマッチングも重要である。
委員	空き家の除却には多額の費用がかかる。壊すだけでも費用負担が大きく、補助制度を知っているかどうかで対応が変わる。必要な人が制度にたどり着けるようにしてほしい。

(3) 第三次佐久市総合計画における重点プロジェクト(総合戦略)素案叩き【プロジェクトⅠ・Ⅲ】について

部会長	議題の(3)「第三次佐久市総合計画における重点プロジェクト(総合戦略)素案叩き【プロジェクトⅠ・Ⅲ】について」事務局から説明をお願いする。
事務局	第三次佐久市総合計画における重点プロジェクト(総合戦略)素案叩きについて説明。
部会長	重点プロジェクトは具体的な内容に落とし込まれており、これまでより戦略性が見える。これを各課の具体的な事業にどうつなげていくのか。
事務局	重点プロジェクトは、全ての施策を横断するものである。各課は、重点プロジェクトの戦略全体と総合計画で掲げる取組内容の双方を意識しながら、具体的な事業に落とし込んでいく。全庁的な意識付けを行いながら進める。
委員	プロジェクトⅠにおいて、「佐久平駅周辺地区の持続発展に資する新たな土地利用」とあるが、具体的にどのような土地利用を想定しているのか。佐久平駅周辺は人口が集中して

	おり、今後も重要な場所になると思われる。
事務局	具体的な内容について、どこまで説明できるか検討を要する。佐久平駅周辺には、まだ活用できる余地があると考えており、その可能性を踏まえて記載している。
部会長	水面下では相当進んでいるということか。
事務局	現時点で具体的に進んでいるものばかりではない。今後、国の補助金等を活用する際にも、総合戦略上どこに位置付けられているかが必要になる。5年間を見据え、今後できる可能性がある内容を戦略に落とし込んでいる。
委員	佐久平駅周辺や中込など、それぞれの地域には特徴がある。中山間地域も含め、地域の特色を生かしたまちづくりが必要である。駅周辺だけが膨らむと偏りが生じる。市全体として、どの地域をどう生かすかという方向性がほしい。 晴天率や標高の高さは重要な地域特性であり、農業など多様な分野にも生かせる。一方、五稜郭などを、星や宇宙へ結び付けるのは難しい部分があるのではないかな。 横文字が多い。「ウェルビーイング」「アンコンシャス・バイアス」「シビックプライド」などは、市民が見たときに分かりにくい可能性がある。市民向けには分かりやすい表現や注釈が必要である。
事務局	最終的には市民説明会で説明することになるため、分かりやすい表現や補足について検討する。
事務局	宇宙関連については、国や県の戦略も勘案する必要がある。佐久市には JAXA の大型パラボラアンテナがあり、臼田地域には星のまちとしての特性もある。五稜郭については、当初の意図とは異なる面もあるが、星型という地域資源として位置付けている。晴天率や標高の高さ、星の美しさは、他のプロジェクトでは農作物や暮らしやすさにも結び付けている。「佐久市らしさ」を各分野に落とし込む考え方である。

委員	星や宇宙を打ち出すなら、南牧村や野辺山など周辺地域との連携も考えられる。佐久市だけで完結するのではなく、広域的につなぐ視点も必要である。
部会長	晴天率の高さなどは佐久市らしさとして分かりやすい。
部会長	重点プロジェクトについては、説明のとおり進めていただきたい。

(4) その他

部会長	その他について事務局から説明をお願いします。
事務局	本日の第4回部会をもって、部会での審議は終了となる。次回は、全体会において審議を行う。次回全体会は、8月17日(月)午前10時から、議会棟2階全委員協議会室で開催予定である。内容は、現行計画の令和7年度の進行管理について各部会から報告し、審議会として進行管理に関する答申をまとめること、及びこれまでの審議を踏まえた第三次総合計画素案について審議することである。
部会長	全体を通して委員から発言がなければ、議題を終了する。

3 閉会